

ひしんち

議会だより

2024・1・20
No. 180

日本一早い山開き 鹿狼山元旦登山

〈12月定例会・初議会〉

- 定例議会の概要…………… 2～ 4
- 町政を問う …………… 5～12
- 議会を傍聴して …………… 13
- 初議会（議会の構成）… 14～16

12月
定例会

12月定例会のあらまし

令和5年12月定例会は、12月8日から13日までの6日間の会期で開催され、印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例や、職員給与に関する条例の一部を改正する条例、一般会計・特別会計補正予算など追加議案を含め12議案、議員提案の特別委員会の設置など3議案を審査し、原案のとおり可決した。
また、11日と12日には7名の議員が一般質問を行った。

条例

国民健康保険税条例の一部を改正する条例

新地町国民健康保険の被保険者で、令和5年11月1日以降に出産する（した）方の国民健康保険税を産後産後期間相当分減額するため、所要の改正を行うもの。
※令和6年1月以降の対象となる期間の保険税が減額される。



印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例

印鑑登録証明書の取得には印鑑登録証の添付が必要だが、申請者本人に限り、マイナンバーカード等で本人確認を行うことで印鑑登録証の添付を省略できる。また、コンビニ等に設置してあるマルチコピー機からマイナンバーカードを利用し、印鑑証明書の交付を受け取ることが可能となる等の規定を定めるもの（令和6年3月1日施行）

15議案可決！

コンビニ交付サービス導入に向けた手数料条例一部改正など

補正予算

一般会計補正予算（第4号・第5号）

歳入歳出それぞれ

1億7260万円を増額し

総額62億9160万円に

一般会計補正予算の主な事業

非課税世帯等への物価高騰支援給付金	4,480万円
公共下水道事業特別会計への繰出金	2,500万円
地域経済循環創造事業補助金	1,815万円
福祉避難所の非常用自家発電設備設置工事	770万円
中学校体育館の整備工事	696万円
防災無線屋外拡声子局修繕費	252万円
産地生産力強化総合支援事業	62万円
新地駅前複合商業施設光熱水費	35万円

主な質疑

問 地域経済循環創造事業補助金の具体的な事業内容は。

回答 民間事業者による新地産の地場産品を活用した特産品づくりの拠点を新地駅前の民有地に建設し、企画・製造・販売や、特産品・観光情報等の発信も行う予定。

主な質疑

問 役場窓口とコンビニ交付の手数料の違いは。

回答 窓口交付では世帯全員の住民票の写しが1枚増す毎に50円加算になる。コンビニ交付の場合は、2枚以上になっても手数料は加算なく200円で取得できる。



▲これまでよりも取得しやすく

手数料条例の一部を改正する条例

マルチコピー機で世帯全員の住民票の交付を受けた場合、手数料を200円とするため、所要の改正を行うもの（令和6年3月1日施行）

職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

福島県人事委員会勧告に準じ、全ての号給の給料月額を引上げ、期末手当及び勤勉手当の支給割合をそれぞれ、一般職員は0・05月分、定年前再任用短時間職員（暫定再任用職員）は0・025月分引き上げるなどの改定を行うもの

議会議員の議員報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
町長等の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例

福島県人事委員会勧告及び職員の給与に関する条例の改正を踏まえ、期末手当の支給割合を0・1月分引き上げるもの

問 非常用自家発電設置工事を行う福祉避難所の場所は。

回答 グループホームゆい（小川地区）に新たに設置するもの。

問 複合商業施設の共用部分光熱水費の歳出が多くなった要因は。

回答 燃料高騰に加え、観光協会が令和4年度から土日祝も営業しており、当初の見込みより利用が増えたため。

問 物価高騰支援給付金等の対象と支援内容は。

回答 非課税世帯は一世帯あたり7万円、均等割のみ課税世帯は一世帯あたり3万円を給付、また漁業者への資材高騰対策支援も検討。

問 産地生産力強化総合支援事業の対象と内容は。

回答 花などの生産を行う事業者に対し、機械購入の一部補助を行うもの。

議員 議 発

議員提案により、3議案が提案され、原案のとおり可決した。

新地町議会議員の請負の状況に関する条例

提案内容

地方自治法の一部改正に伴い、議員にかかる請負に関する規制の明確化及び緩和がなされたことに伴い、議員の請負の状況を公表すること等により、請負の状況の透明性を確保し、議会運営の公正及び事務執行の適正を図ることを目的に条例を制定するもの



特別委員会を設置

新地発電所増設等整備促進特別委員会

委員長 菊地正文 議員
副委員長 水戸洋一 議員

商業施設誘致特別委員会

委員長 三宅信幸 議員
副委員長 八巻秀行 議員

設置の趣旨

新地発電所は、運転開始から20年以上にわたり、本町の財政基盤の充実に寄与してきた。

議会としては、本町のまちづくりと復興に資するためにも「新たなエネルギーの活用や、より効率的な発電技術の開発により環境に配慮した発電所の増設」が必要と考える。
安定した電力の長期供給を図る取り組みを、積極的に要請するため、新地発電所増設等整備促進特別委員会を設置する。

設置の趣旨

第6次総合計画策定に関するアンケート調査では、7割を超える多くの町民が『スーパーマーケットが必要』と、回答している。

町内唯一のスーパーマーケットが閉店撤退し、町民は食料品等の調達に相馬市や隣町まで行かなければならず大変不便を感じている。
議会としては、今後、更なる高齢化社会が進み、買物弱者や買物難民が増加することが予測されることや、町民生活の安定はもたらぬのことも、社会福祉向上の面からも早期に商業施設（スーパーマーケット等）の誘致が必要と考え、商業施設誘致特別委員会を設置する。

陳情・要望等(12月定例会)

議会では、地域住民より直接の声となる、請願、陳情、意見等を受付けています。今定例会では、下記の陳情等を受付ました。

	件名	提出者	審査結果
陳情	「国の『被災児童生徒就学支援等事業』の継続と、被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書」の提出を求める陳情書	福島県教職員組合 中央執行委員長 瀬戸 禎子	採択 (意見書送付)
	政党機関紙の庁舎勧誘行為の自粛を求める陳情	「福島県を明るくする会」いわき支部 代表 矢内 正人	
	健康保険証廃止の中止を求める陳情書	福島県社会保障推進協議会 会長 佐藤 和久	
	すべての医療・介護従事者の処遇改善と人員増を求める陳情	福島県医療労働組合連合会 執行委員長 高橋 勝行	
要望	年金制度における外国人への脱退一時金の是正を求める意見書の採択を求める陳情	行橋市議会議員 小坪 慎也	議員に 印刷して配布
	令和6年度 理科教育設備整備費等補助金予算計上についてのお願い	公益社団法人 日本理科教育振興協会 会長 大久保 昇	
	学校教材(備用)の計画的な整備推進についてのお願い	一般社団法人 日本教材備品協会 会長 大久保 昇	
	令和6年度教育予算に関する要望書	新地町小・中学校PTA連絡協議会 会長 小賀坂 義紀	

ただここを質す!

町政を問う

一般質問

今定例会の一般質問は、12月11日・12日に行いました。

議員7名からは19件の通告があり、子育て支援や災害予防対策、人口減少対策などについて質しました。

各議員からの質問内容は、左記のとおりです。以下、主な質問と答弁を、登壇した順にお知らせします。

7名の議員が質問

(通告順)

井上和文議員 P6

- 1 子育て世代を応援する施策について
- 2 スーパーの誘致について

寺島博文議員 P7

- 1 県道・町道交差点の安全確保について
- 2 河川愛護・道路愛護の草刈りについて
- 3 しんちゃんGOについて

牛坂毅志議員 P8

- 1 災害の予防対策について
- 2 町道大戸浜今泉線について
- 3 若い世代との意見交換について
- 4 町長2期目の期待について

吉田博議員 P9

- 1 東日本大震災による復興町づくりについて
- 2 地震による道路の整備状況について

村上勝則議員 P10

- 1 高齢化への対応について
- 2 町道新地駒ヶ嶺線・立田川橋以北の拡幅計画の状況について

寺島浩文議員 P11

- 1 人口減少対策は
- 2 交流人口増加策を
- 3 移住定住に空き家を活用

大内広行議員 P12

- 1 選挙投票率の向上対策について
- 2 子育て支援について
- 3 まちづくりについて



井上和文 議員

学校給食費の無償化を

回答 国の動向を注視して取り組む

問 今、学校給食費の無償化が県内で広がっている。59市町村のうち完全無償化は30市町村が実施しており過半数だ。岸田総理は「自治体が補助し学校給食費の無償化は適切に判断いただきたい」と国会で答弁している。また平成30年9月議会では、「学校給食費の無償化を求める請願」を新地町議会は全会一致で可決している。浜通りをみると広野町から相馬市まですべて無償だ。物価高騰の中で家計の圧迫が増えている中、子育て世代を応援する学校給食費の無償化を実現すべきだ。

回答 国では、学校設置者の判断により学校給食を受ける児童生徒の保護者負担を軽減することは可能だとしており、双葉郡は原発事故の特例交付金、その他はコロナ交付金等を活用して全額補助を実施しているようだ。町では米購入費を補助し物価高騰の値上がり分もコロナ交付金で補助し

ている。学校給食費無償化のメリットデメリットもあるだろう。子供たちの支援は重要で財政が許す範囲で一步づつ着実に進めたい。

問 無償化をすぐ実現できない課題があるのか。

回答 給食は学校の中で福祉分野に入る。国の実態調査を踏まえて、特別支援、必要保護は無料になるので、申し込みなどをできるだけ利用できるように勧めている。保護者、教職員から無償化の要求が出る場合には考えなくてはならない。

問 どの市町村も財政が豊かだから無償化を実施しているのではない。子育てを支援するという施策だ。実現に向けて進むべきだ。

回答 文科大臣が子供子育て支援で今後3年間で学校給食費無償化に向け実態把握と課題整理を始めている。動向を注視しながら米飯補助を続け検討していく。

スーパーの誘致を

回答 公設民営で取り組む

問 経済産業省では、買い物難民、買い物弱者は、700万人いると推計している。農林水産省の「食料品アクセス困難人口」では、2015年時点で824万6千人という。NHKでも放送されたが買い物ができなくなることで外出がおっくうになり孤立化等どんどん悪循環になっていくということだ。



▲スーパー誘致が待たれる用地

新地町の産業施設拡大用地は、平成30年に復興支援拠点整備ということで2・4畝が許可された。令和2年3月30日に造成が完了し約3年以上が経過している。地権者は8名うち地元中島地区は5名いる被災しながらも商業施設であれば協力することだった。買い物弱者への支援、既存の事業者（新地町商工会）等への要請、相談、生鮮食料品を扱うスーパーの誘致を急ぐべきだ。

回答 これまでスーパーマーケット事業者と交渉してきたが進出は難しいとのこと。今後は移動販売も視野に入れ生鮮食料品に特化し公設民営で取り組む。取り組みの定期的な報告は約束できないが地元の事業者は、つぶしてはならないということを入れて進める。商工会、商業部会と情報交換し施設整備の財源は国補助を調査する。



寺島博文 議員

カラー舗装など対策すべき

回答 今のところ考えていない

問 県道273号線（柴・中島線）と町道狼沢線との交差点は、バイパス道路改良工事が行われた事により、通行方法が変わり交通事故が度々発生している。事故防止対策が必要でないか。

回答 路面に「止まれ」の文字と、注意喚起を促すゼブラを表示した。また「この先交差点一時停止」の注意看板を、町道両側に設置し、安全対策を講じてきた。

問 地元の方によると「この交差点は、たびたび事故が起き危険だ」との事。交差点手前路面を、デコボコにする「ハンブ」やカラー舗装などで注意喚起をすべきだ。重大事故が発生してからでは遅い。再度答弁を求めたい。

回答 他の交差点に比べると、「止まれの表示」や、「ゼブラ表示」等で注意喚起している。カラー舗装やハンブをする考えはない。



▲安全対策が求められる交差点

河川・道路愛護作業の業者委託化を

回答 ボランティア活動として業者委託は可能

問 河川・道路愛護の作業環境は、年々悪化して来ている。町民の生命、安全を守る為、業者委託を進めるべきでないか。

回答 ボランティア活動や愛護活動の一環として活動頂ける場合は、業者などへの委託は可能である。



▲堤頭舗装が進む河川

「しんちゃんGO」中学生利用も可能にすべきだ

回答 活用可能と考えている

問 今年6月の一般質問で、中学生の通学利用を要望した。答弁内容は、「今のところ、中学生の通学利用は、想定していないが、今後検討していく」との事であった。現在の検討状況について伺う。

回答 中学生の通学利用については、これまでしんちゃんGOの通学利用を制限していたが、今回の見直しに合わせ、拠点通過型運行の利用には、特に制限を設けない予定である。よって、運行ダイヤや、その時の乗車状況にもよるが、活用可能と考えている。



牛坂毅志 議員

災害の予防対策は

回答 防災マップで意識向上を図る

問 新地町は山、海、平地で成り立っているが、山の土石流、海の津波、平地での新しい道路が出来たため交通事故が多くなっているが、町長の考えを伺う。

回答 土砂災害については、土砂災害警戒情報指定区域住民に向け、個別に避難等呼びかける。津波対策については、避難訓練を行って防災意識と防災体制の向上を図ったところである。町内の小中学生には、授業で防災学習を行った。道路での交通事故について、町広報、防災無線で交通ルールの遵守等呼びかけ交通安全啓発に努める。



▲防災マップの再確認を

大戸浜今泉線の今後の取組は

回答 倒木処理等パトロールを継続

問 東日本大震災の大津波の際、大戸浜地区住民等が町道大戸浜今泉線を利用して総合体育館へ避難した。今後、どのように取り組んでいくのか伺う。

回答 確かに、避難道路の状況はよくない。そこで、復興交付金で、待避所の整備を行ってきた。延長1300mのうち、地域的に拡幅可能だった今泉方面は

問 450区間で拡幅、山の稜線を通る北側の区間は盛り土をするなど一定の整備を行った。この道路は台風時など、道路沿いの倒木が見られる状況。その際は緊急パトロールを実施し、倒木処理などを行い災害時の通行に支障のないよう努め、今後も同様の取組を続ける考えである。



▲町道大戸浜今泉線の現状

若い世代との意見交換を

回答 積極的に出向き意見交換したい

問 これから新地町を背負っていく若い人達との意見交換が必要ではないか。町長の柔軟な対応をお願いしたいが、考えを伺う。

回答 まちづくりには、町民や行政などが協力して取り組む「協働」が欠かせない。若い世代を含めた様々な世代の方の多様な意見を取り入れるためにも意見交換は必要。会合の大小問わず訪問の機会をいただければ、積極的に出向き意見交換をし、町政運営に反映させて参りたい。

この他、「町長2期目の期待について」の一般質問がありました。

防災元地の整備は

回答 利用者を募集中



吉田博 議員

問 東日本大震災から12年過ぎた今、当初の計画通りの復興がなされているのかいないのか、計画の達成度について伺う。

回答 新地町復興計画のもと、被災者の意向を踏まえ、住まいの再建や地域の特性に応じた避難施設、避難道路の整備に取り組むなど、安全なまちづくりに向け総合的に取り組んできた。しかしながら、駅周辺の事業者誘致や防災集団移転元地の活用など、課題もあるので引き続き課題解決に取り組む。

問 震災前、釣師地区の人々が住んでいたところに、いわゆる防災元地にキャンプ場やパントラック・みんなの広場などが整備されたが、利用実績は当初計画どおり推移しているか伺う。

回答 個別毎の利用は設定していないが、釣師防災緑地公園全体の利用者は、令和4年度実績で5万5千人であり、民間による花火



▲防災元地には貸し地の看板が

大会などで、前年度より1万3千人の増となった。

問 大戸浜に住んでいた一部の人も、津波被害に遭ってその土地を去らなければならなくなり、復興12年目にしてこの土地のほとんどが整備されておらず、大戸浜の防災元地をこれからどのように整備するのか。

回答 防災集団移転元地の土地利用については、事業者を募集すると共に、現在は盛り土を行うなど、誘致推進につながるよう努力している。

近年の地震による

道路整備は

回答 来年3月末完成で進める

問 たび重なる地震災害によって下水道を含む復旧作業が今でも行われており、道路整備等の完了はいつになるのか伺う。

回答 復旧工事内容としては、污水管の撤去、新管

埋設の支障確認や管理者との協議など、更には路床・路盤の安定化を図るため一定期間放置するため、舗装本工事が遅れることにご理解いただきたい。

問 地震による道路の整備状況については、道路復旧工事が終了した一部地区に、再び路面にひずみのある



▲周囲が沈下したマンホール



村上勝則 議員

夫婦世帯への給食サービスを

回答 アンケート等の調査後に検討

問 70歳以上の要介護認定者など1人暮らしを対象に、配食サービスを行っているが、80歳以上の夫婦2人暮らしの場合は対象外となっており、希望する声もあるが。

回答 高齢者給食サービスは、70歳以上の1人暮らしで、福祉票の提出されている方や要介護、要支援者を対象に月3回実施しており、1回100円の負担金がある。申し込んでいるのは80名で、民生委員が自分の担当地区で配布している。1回に配食できる数は100食で、一人暮らしが対象である。今後、夫婦世帯での需要等のアンケート調査を実施し、供給量、配達の方法、経費などを社会福祉協議会と協力しながら検討していきたい。

問 今年4月から「見守り隊」が発足し、高齢者の安否確認を含め状況把握に努めているが、成果は。

回答 見守り活動は、概ね75歳以上の高齢者世帯を対象に、安否確認をお願いしている。10月13日時点で行政区、自主防災組織が活動を行っており、成果は一定程度出ている。この事業は始まったばかりなので、今後は各団体の代表から意見を聞きながら、方法等の情報を共有し、継続できる制度としていきたい。



▲いきいきクラブの活動風景

立田川橋以北の道路拡幅は

回答 遅れ気味で見通し立たず

問 町道駒ヶ嶺新地線は、立田川橋を含む北約300mの道幅が狭く、車



▲立田川橋付近の朝の通学

両の両面通行が困難な場所があり、拡幅計画が進められているが、現在の進捗状況と見通しは。

回答 駒町の点滅信号付近は、通勤通学の時間帯は歩行者、自転車、自動車も多い。学校関係や警察、町等の通学路安全点検においても要対策箇所である。令和2年度から事業説明会を開催しながら、測量、設計に着手しているが、遅れ気味となっている。住宅の移転等もあり、現段階で見通しを発表できる状況にはない。



▲車両の通行も頻繁に

以北を第2期として整備すれば効率的と考えるが。

回答 北側を拡幅し、その後、立田川橋を含む南側の工事を予定しているが、用地買収等の状況によっては、南側を優先することも検討したい。

問 立田川橋の架け替えは、工期として1年余を要すると思うが、通行量が多いだけに工事期間の迂回路を考えておく必要があると思うが。

回答 橋の架設には2年以上を想定しており、歩行者単独橋か、本橋架け替えかによっても通行規制形態が変わる。工事の際には、周知をさせていただきたい。

鹿狼山の更なる魅力アップを

回答 商工会・観光協会とも連携



寺島浩文 議員



▲賑わう鹿狼山つながるマルシェ

問 新地で一番の観光地と言えば鹿狼山であるが、その鹿狼山周辺の駐車場を増設する計画が出ている。100台以上という計画なので、更なる交流人口の増加が見込められると思う。そこで鹿狼山と町の更なる魅力アップ、その経済効果を高める為にも、今まで行ってきた鹿狼山マルシェのスケールアップや、新規の物販、あるいは飲食店の誘致など、経済効果を高め交流人口を増やす取り組みを、民間を巻き込んで推進していくべきではないか。

回答 今年9月から鹿狼山の登山口において、地域おこし協力隊の熊谷さん「鹿狼山つながるマルシェ」として、農産物等の販売をしている。当初は花・苗・野菜等の品揃えであったが、最近では果物・加工品・スイーツや弁当なども品揃えしている。新設する駐車場は、令和7年度の供用を目指しており、より多くの登山客に訪れていただき、町内の物販や飲食等の経済効果につなげていきたい。このような活動がモデルケースとなり、他の事業者の刺激になる事を期待する。

問 新たな出店事業者が出てくるのを待つのではなく、駐車場の増設により登山者が増えること、そして新規起業家に対する支援策（最大300万円）あることももっとPRし、新規出店を促すことが必要ではないか。

回答 やはり登山に來られた方に物販・飲食等、町内で消費していただく事を推進していきたい。その為には民間の活力が必要だと思っているので、商工会や観光協会とも連携して取り組んでいきたい。

人口減少対策は

回答 外部の意見も取り入れる

問 以前の人口減少対策の一般質問の答弁では、庁内関係部署の横断的な取組により、各課の施策を現体制で進めていくという事だった。しかし現実には人口減少に歯止めがかかっていない。今後どの様な取組を行っていくのか。また成果が出ない場合、以前から提案しているように、対策チームの設置も必要ではないか。

回答 当面は現体制において、第6次総合計画の行動計画で各課が進める施策や事業を共有し、連携を密にし、人口減少問題について各種施策を進めていく。

移住定住に空き家を活用

回答 リフォーム補助が申請し易く

問 新地町も今後空き家が増えていく事が予想される。町の空き家バンクを充実させ、移住定住に空き家を活用してもらう為に、県のリフォーム補助に、町独自で上乗せできないか。

回答 県のリフォーム補助「住んでふくしま」空き家対策総合支援事業により、最大250万円補助する制度がある。この制度は来年度より補助内容が変わり、限度額は変わらないが、1/2が市町村負担となるため、独自の補助制度については状況をしながら検討する。しかし申請窓口が各市町村に変更になったことから、申請しやすい制度環境になると考える。



大内広行 議員

高校生向け経済的支援の検討を

回答 通学支援として検討する



▲相馬総合高校新地校舎

問 相馬総合高校新地校舎の統合により、本町の高校生は全員町外に通学することとなる。子育て支援施策において経済的支援等の対応をすべきではないか。

回答 新地町奨学資金貸付制度を実施している。また、返済時に条件を満たしている方に対しては、優遇措置として令和3年に奨学資金返還支援事業を立ち上げ、返還金相当額（限度額有り）を助成している。それらを活用願う。

なお、通学への支援ということであり、町として来年度実施に向け検討している、小中学生向けの通学時の交通安全関連の支援策と

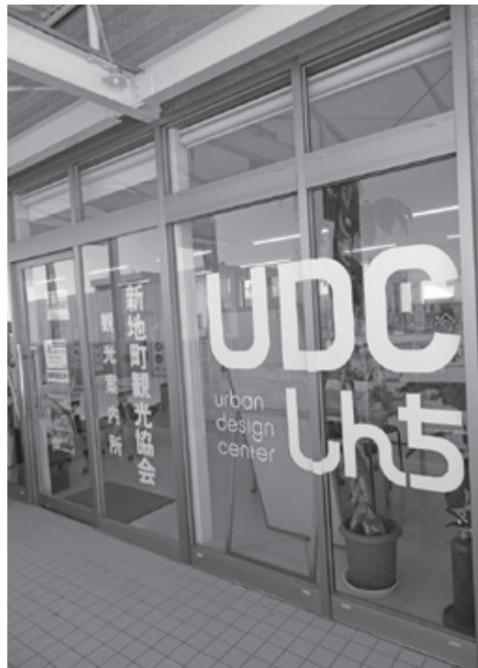
含めて検討したい。

まちづくりのためUDCしんちの積極的活用を

問 新地駅前設置したUDCしんちは、まちづくり拠点としての機能があると思う。これまでの運用実績と今後の目標は。また町として、どのように活用していくのか。

回答 組織化を早期に進め活用していく

回答 コロナの影響で公式に組織化には至っていないが、できる範囲でワークショップや分科会を開催して意見交換をしながら、地域の課題やニーズを共有してきた。今後は、早期に組織化を行い、目標や具体的な取り組み内容を議論する。UDCしんちは、住民主体の持続可能なまちづくり拠点として、連携・交流・情報交換の場となる。町としても積極的に関わり活用していく。



▲新地駅前のUDCしんち

選挙の投票率向上対策を

回答 選挙管理委員会と共に検討

問 今回の町議会議員選挙の投票率・投票数共に過去最低を記録した。年代別の投票率の傾向はどうだったか、それを踏まえ選挙の投票率向上のため、駅前への期日前投票所、高齢者等身体の不自由な方向けの手助けなど、有効な手段を講じて取組むべきではないか。

回答 特に20代の投票率が顕著に低い傾向を示して

いる。二十歳のつどいなどの機会を通じ啓発を行う。駅前への期日前投票所の設置については、新たなコストが発生する。その効果も踏まえる必要がある。高齢者向けの対応等も含め、町民からの声を聴きながら、選挙管理委員会と町事務局で検討していく。

その他の質問

- ・住民主体の会議体を設置し多様な意見を収集すべき
- ・積極的な情報発信により関係人口増加に取組むべき

議会傍聴

議会では、多くの方に議会活動等を理解していただくため、議会の傍聴を受け付けています。

12月定例会では25名の方が議会を傍聴され、行政区長に議会を傍聴しての感想などをいただきました。



▲12月定例会を傍聴

議会を傍聴して

様々な可能性を模索しながら

第八行政区長

寺島 登

十二月定例議会の一般質問が行われた際に行政区長会で傍聴を行いました。私としては今回の議会傍聴は初めてであり、どのようなものなのか期待をして傍聴に向かいました。傍聴を行った日は四名の議員が十一項目について質問が行われました。

それらの質問の中で子育て世代を応援する施策について質問がされてきました。具体的には学校給食費の無償化についての議論となり、町当局は給食の米飯について補助を行っており、今すぐの無償化には消極的な回答をしているように感じました。質問者と町当局の建設的なやり取りは両者とも今後の町のことを考えたものであったと思います。個人の考えとしては子どもや高齢者などの弱者がより安全・安心に暮らせ

る町になってほしいと思っているのでより積極的な支援が必要になるのではないかと思います。

今年度から第八行政区長となり、現在の新地町の状況を改めて考えてみると地域のコミュニケーションが不足していると思っております。過去三年間は新型コロナウイルス感染症の影響で全ての行事を中止せざるを得ませんでした。行政区独自の取組は町の支援を受けながら実施していますが、地域のコミュニケーション不足の解消のため、町としても様々な企画を検討していただきたいと思います。

最後に議会議員の皆さんにはスーパーの誘致に向けて力を入れてもらいたいと考えております。食料品などの買い物をするのが町外で済ませることが多く、町内にスーパーがあれば便利になると思っています。早期実現のため町議会と町当局が協力して各企業への働きかけや誘致に向けたアイデアを出し合うなどして

様々な可能性を模索してもらいたいです。

議会も町も活気が必要

第十二行政区長

菅野 孝雄

今年度から第一二行政区長となり、区長会の活動の一環として一般質問が行われている議会傍聴の機会がありました。これまで議会傍聴はしたことがなかったので良い機会だなと思いました。

今回傍聴したのは一二月定例会議会で、令和五年一月に行われた町議会議員選挙後、初めて行われた定例会でありました。新たな議員の方が加わり、どのような議会になるのかと傍聴をしましたが、思ったよりも活発なものではなかったというのが率直な感想でした。町の発展のためにより活発なやり取りがある議会になることを期待しています。

一般質問の中で私が気になった質問は河川愛護・道路愛護の草刈りについての質問です。

地域によって様々な状況はあるかと思いますが、自分の地区のことを考えると、高齢者の方が多く、これから先は同じような形で愛護活動を続けていくことは困難だと思います。だからといって、外部にお願いしてもいいものかという地域とのつながりや景観維持などの側面もあるので簡単な問題ではないものだと思います。町当局の回答も本能的に解決するような回答ではありませんでした。引き続き持続可能な事業運営を考えていつてもらいたいです。

現在の新地町はもつと活気があってもいいのではないかと考えます。鹿狼山や海釣り公園、新地駅周辺の新しい施設など魅力ある場所が多くあると思います。それらを活用し、多く集客をして町全体に活気が出るようにしてもらいたいです。そのために町議会の方々には現在の町の状況を各地に出向き、実際に見て、聞いてもらい、これから活動してもらいたいです。

令和5年 第4回 議会臨時会(初議会)

新議会の構成が決まりました

令和5年第4回臨時会(初議会)は、11月20日に招集され、本会議において正副議長の選出並びに議会構成決定後、議案審議を行い、人事案件1件を同意しました。

今後4年間の議会運営にかかる議会の組織構成は次のとおりです。

議員の紹介

議長

議席番号12番
遠藤 満 (73歳)
当選 4回

副議長

議席番号11番
水戸 洋一 (70歳)
当選 3回

就任あいさつ

このたび議員各位のご推挙を賜り、議長、副議長に就任させていただくことになりました。身に余る光栄であるとともに、その職責の重大さを改めて痛感いたしております。町民の皆様への期待と信頼に応えるべく、公正かつ円滑な議会運営のため、全力で職責を果たしてまいります。

近年、頻発する異常気象や地震などの自然災害、原油価格物価高騰による影響はまだまだ続いております。本町においても、少子高齢化にともない、子育て支援や高齢者福祉の充実など、課題は山積しております。

議会としましては、町民のニーズを把握し、町の課題解決のために、真に必要な政策を見極め、町当局、議会が両輪で、町民が安心して暮らせるまちづくりに取り組むべきとお考えしております。

将来に希望と誇りが持てる新たなまちづくりに、議員一丸となり、取り組んでまいりますので、引き続き皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

人事

監査委員の選任

議員から選任される監査委員に、菊地正文氏を選任することに全会一致で同意しました。任期は議員の任期による。

〔一部事務組合〕

相馬地方広域市町村圏組合 議会議員

井上 和文
八巻 秀行

相馬地方衛生組合 議会議員

寺島 浩文
寺島 博文
牛坂 毅志
大内 広行

相馬地方広域水道企業団 議会議員

吉田 博
村上 勝則

議会の傍聴しませんか

★次回の定例会は、3月初旬開会の予定です。

議会は、所定の用紙に必要事項を記入して頂くことにより、どなたでも自由に傍聴することができます。

詳しくは、議会事務局へお問い合わせください。

議会事務局 (新地町役場3階) ☎62-2190 (直通)

議席番号1番



大内 広行 (51歳)
当選 1回

議席番号2番



村上 勝則 (70歳)
当選 1回

議席番号3番



牛坂 毅志 (70歳)
当選 1回

議席番号4番



寺島 博文 (65歳)
当選 2回

議席番号5番



吉田 博 (74歳)
当選 4回

議席番号6番



八巻 秀行 (74歳)
当選 4回

議席番号7番



二宅 信幸 (75歳)
当選 4回

議席番号8番



寺島 浩文 (61歳)
当選 4回

議席番号9番



菊地 正文 (76歳)
当選 9回

議席番号10番



井上 和文 (68歳)
当選 10回

各種委員会構成

	常任委員会		議会運営委員会	議会広報編集委員会
	総務文教	産業厚生		
委員長	寺島 浩文	寺島 博文	寺島 浩文	村上 勝則
副委員長	大内 広行	井上 和文	寺島 博文	吉田 博
委員	遠藤 満	水戸 洋一	水戸 洋一	八巻 秀行
	三宅 信幸	菊地 正文	井上 和文	牛坂 毅志
	八巻 秀行	吉田 博	大内 広行	大内 広行
	村上 勝則	牛坂 毅志		



総務文教常任委員会



産業厚生常任委員会



議会運営委員会



議会広報編集委員会

編集委員

委員長 村上 勝則
副委員長 吉田 博
委員 八巻 秀行
委員 牛坂 毅志
委員 大内 広行

元日に発生した能登半島地震の被災者の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。さて、12月定例会は、新しい顔ぶれが加わり心機一転、活発な議論が行われた。新年を迎えたが、この時期になると、平成23年3月の東日本大震災、さらに令和3年2月、翌4年3月の福島県沖地震を思い起こす。今後も大きな地震発生の可能性がささやかれるが、災害時にも安心できる生活、町民の命と財産を守ることは行政の責務であり、最後のセーフティネットだ。議会は町民ファースト、主役は町民であることを議員一人ひとりが肝に銘じ、決意をもって望みたい。
(村上 勝則)

編集後記